学びの広場

各種施設での事業（その10）

今回は「仲町屋地域集会施設」を中心に行われている事業の様子を仲町屋自治会長の武田信之さんに伺いました。

多くの会員参加の納涼大会

仲町屋自治会では、冬の道祖神祭と並ぶ、夏のイベントとして、納涼大会を8月の第1土曜日に地域集会施設前の松田中学校駐車場を会場として開催しています。

楽しみな模擬店

自治会の各世帯に焼き鳥、綿菓子、かき氷の無料引換券と「ガラガラポン」の無料抽選券を配るなど多くの方が楽しく参加できる工夫をしています。

子どもたちや保護者による道祖神太鼓の音が響く中、ふれあい会によるバザーや模擬店の飲み物、焼きそば、ビールなどの販売も行い、夏の1日を楽しんでいます。

道祖神祭について

道祖神祭は、伝統的に正月の14日に行ってきましたが、近年は大人の勤め、子どもの学校生活などの変化により、1月14日に一番近い日曜日に変更して行うようになりました。

道祖神を安置し、オンベ（左写真）を立て、ダンゴ焼き場を設置すると共に、子どもたちが道祖神太鼓を打ち鳴らす姿がみられます。

また、ダンゴ焼きにも大勢の方が来られ、正月に書いた書初めを燃やし、火の粉となって天空に舞い上がるといった風景や焼いたダンゴを家に持ち帰って、家族で食べるという楽しみもあり、この伝統行事を今後も継続していきたいものです。

オンベを立てているダンゴ焼き場（川音川）

青少年健全育成会

平成4年に仲町屋の青少年を地域ぐるみで非行から守るために設立され、今年で22年目を迎えます。

活動は自治会と連携し、キックベースボール、陶芸教室、クリスマスのおはなし会や道祖神のおダンゴづくりなどを通して、幼児を含めた青少年と住民の交流を図っています。

現在の会員数は59人です。

クリスマスおはなし会

道祖神太鼓

仲町屋道祖神太鼓は、町がたくさんの山車で賑やかだった頃から、今日まで続いています。

小学生を対象に、普段の練習は月1回、行事の前は1週間に1回くらい続けて行います。

がんばって練習しています

主な行事は道祖神祭と自治会納涼大会に出演します。

道祖神祭の時は、山車に乗って自治会内を太鼓をたたきながら廻ります。子どもたちは山車に乗ることを楽しみにしており、古くから伝承されてきた道祖神太鼓が、途切れることなく続けていけるように自治会全体で見守っていきたいと思います。

ふれあい会

ふれあい会は、

①身近な生活支援活動

②住民のふれあい活動　を2本柱として、お互いさまの助け合いがある、温かい地域づくりをめざして活動しています。

◇いきいき交流会

《高齢者向けサロン活動》

（毎月第3水曜日）

ストレッチ体操、レクリエーション・ゲーム、歌、お喋り、学習会（出前講座・内部者講話）

◇溜り場集会

《趣味を基本としたふれあい活動》（毎月1～2回水曜日）

歌の溜り場、手芸の溜り場、菓子作りの茶話会

◇世代間交流兼ミニ敬老会

（毎年9月の休日）

地域の子ども、保護者、高齢者が敬老祝いを兼ねて、心温まる昼食会を開催。

◇ラジオ体操会

（夏休み前後期10日ずつ）

朝のラジオ放送に合わせて、子どもから大人まで、朝のふれあい交流体操会を実施。

子どもも大人も夏休みのラジオ体操
（町立体育館前）

◇自治会行事への参加協力

・道祖神祭でのお汁粉作り

・納涼大会でのバザーと盆踊り

・青少年健全育成会への援助

自彊術（じきょう）を楽しむ会

地域集会施設をお借りして、講師の先生に自彊術を教えていただき、今年9月で10周年を迎えます。

心と身体の調和を図ります

自彊術は日本最初の健康体操です。自彊術には31の動作があり全身をくまなく動かすことで心と身体の調和を図ります。

私たちは、自彊術をやりながら地域の話をしたり、年2、3回の食事会を計画し、仲間との交流を深めています。

自彊術は年齢に関係なくできる体操です。やってみたいと思われる方はぜひ、見学にきてください。

・毎週金曜日

午前9時30分～11時30分

淑月（しゅくげつ）ダンス愛好会

音楽に合わせ、体を動かし、社交ダンスを行う踊るサークルで、いつまでも健康でありたいと活動しています。レッスンは次のとおりです。

・毎週金曜日　午後7時～9時

松田の文化財探訪

《指定文化財とその周辺13》

町文化財保護委員　鈴木一行

松田城と松田氏（三）

前回、16世紀後半に松田城は自落（守備兵退去）したと述べました。では、そのとき何が起きていたのでしょう。16世紀後半の当地域での大きな合戦といえば、上杉謙信（1561年）・武田信玄（1569年）の小田原包囲戦、そして豊臣秀吉との小田原合戦（1590年）があります。松田城址発掘調査報告書である『松田城址』では、その答えを小田原合戦に求めています。

秀吉軍の関東襲来時、北条方の多くの城が自落しています。それは「秀吉軍の攻勢によるばかりではなく、北条方が軍勢を小田原城に集結させ、籠城（ろうじょう）戦に備えたからだ」とも言われています。松田城の自落も同じ理由からでしょう。ではその際、当地の民衆も小田原城に籠（こ）もって身の安全を守る事ができたのでしょうか。なにせ、当時の小田原城は日本最大規模を誇っていた城郭でしたから…。しかし、現実はそうではなかったようです。

1590（天正18）年4月、秀吉軍は「松田之郷」「こう山村」等に対して「還住（げんじゅう）の制札」（写真）と呼ばれる掟（おきて）を出しています。これは、離散した農民達に元の地に帰ることを要求し、自軍の兵士の乱暴を禁止する等の内容を持ちます。すると秀吉軍の侵攻に際し、松田や神山の人々は村を逃げ出していたことになります。では、どこに避難していたのでしょう。

当時、「小屋入り」という言葉がありました。戦乱を避けるために裏山などの森林に小屋を作って避難する行為だと考えられています。おそらく、当地の人々も小屋入りしていたのでしょう。そして、安全に帰村したいと願う人々は、多くの食料や銭を秀吉軍に払って還住の制札を入手したのだと思います。